

ココロに希望を灯そう！そしてまちに花を咲かせよう (わがまちふるさとじまん)

男子 11名 女子 14名
計 25名

1 単元のデザイン

単元について

- 本単元は、本校が「総合的な学習の時間の全体計画」で定める「目標（2）ふるさと安浦の人、もの、ことの中から問いを見い出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付ける。」を指導するために設定されたものである。
- 本校区は、山や海など豊かな自然に囲まれ、特産物や語り継がれている伝統を有するまちである。しかし、平成30年西日本豪雨災害で大きな被害を受け、ココロに不安や辛い記憶を残している。そこで、児童一人一人が防災に関する基礎的・基本的な内容を理解することが、自分の命は自分で守ることに繋がると考える。ふるさと安浦のじまんを知ることでふるさとへの愛着をもつとともに、被災した経験を人々に伝えていくことや、児童同士や児童と地域の方々が協働しながら活動することを通して、本中学校区で育成を目指す資質・能力を育むことができる。

児童の実態

- 本学級の児童は、全員が安浦の豊かな自然が好きだと答えている。地域の特産物にも興味をもっており、マリーゴールドの花も、楽しみながら育てている。しかし、平成30年西日本豪雨災害で被災した経験については、「雨が強くなると不安になる」と答えた児童が70%である。
- 1学期に行ったアンケートでは、「自分の考えたことを相手に伝えることができる」と回答した児童は31%であり、伝えることができる児童は少ない。さらに、「相手に伝えるために大事な言葉を選んだり、強調したり心に残るように表現したりすることができる。」と回答した児童は18%であり、相手に伝えるための工夫という点に課題がみられる。

パフォーマンス課題について

- 単元のゴールとして、被災した家族やまちの人に元気をとりもどしてもらうために、防災発表会でこれまで調べたことや自分の気持ちを語るパフォーマンス課題を設定する。まず、ふるさと安浦の魅力を知るために、地域の方をゲストティーチャーとして招き、呉市や安浦町について触れ、興味関心をもたせる。また、復興のシンボルマークとして被災マリーゴールドを広め、その花びらでハンカチを染め、広報活動に使用する。それと同時に、地域の方々から災害の時の状況も聞いたり、風化させないためにも危険な箇所を把握したりしながら、児童同士や地域の方々と関わり、防災について考える活動を通して、主体的・協働的な活動を促す。さらに、家族や町の人々に「安浦の魅力」と「油断禁物」を同時に広めるために、どのように表現すれば伝わるのかを考え抜く活動を通して、子どもたちの被災の記憶を活力へと変換させ、表現力を磨きながら伝え合う中で、思いや考えを共有し合い災害の経験から立ち直るきっかけにもしたい。

思考を深める指導のポイント

- 調べたことを整理する段階では、情報を比較、分類、関連付けしてよりよく深く分析できるようにする。具体的には、グループごとに話し合わせたり（コミュニケーション力）、思考ツールやタブレットを活用し、互いの考えを示しながら交流したりできるようにする。さらに、伝えるというゴールを目指す中で、理由や根拠も述べられるように、表現力を身に付けさせていく。そのために友達や多様な大人と対話的な学びができる場を意図的に取り入れるようにする。（コラボレーション力）

2 単元の目標

安浦町の特産物や名所、防災について調べる活動を通して、そこに関わる人々の思いや願いから町のよさを理解するとともに、地域が抱える課題を発見し、整理分析したりしながら、地域を支える存在に気づき、ふるさとに愛着をもちつつ、地域のためにできることを進んで考えることができるようにする。

3 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の特産物や伝統、学校に保管してある防災グッズや地域で活動されている方々の思いを理解している。 ②インタビューや調査を目的や場面に応じて実施している。 ③自分たちの住む町のよさや特徴を理解することは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①安浦町のよさや防災を探る課題を自らつくり、解決に向けて見通しをもっている。 ②安浦町のよさや防災について収集した多様な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ③集めた情報の中から地域や家族に必要とされる内容を選び、情報が伝わるように、表現している。（コミュニケーション力）	①体験を通して得た知識や自分とちがう友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。（コラボレーション力） ②自分と地域の人々等との関わりの中で自分にできそうなことを見付けようとしている。 ③自分を支えてきた存在に気づき、感謝の気持ちをもとうとしている。

4 単元計画（全54時間）

次		学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1 ～ 3	課題の設定 「安浦町の様子について振り返ろう」 ・現在の安浦の町がどのような町なのか，関心をもつ。 ・安浦を襲った西日本豪雨災害について振り返る。			
	4 ～ 7			◎思①（ワークシート，発言分析）	
二	8 ・ 9	情報の収集 整理・分析 振り返り 「安浦のいいねを見つけよう！被災マリーゴールドを育てよう」 ・安浦にはどんな自慢があるのか考える。			○態①（発言内容）
	10 ～ 15		◎知①（ワークシート，発言内容）	◎態②（ワークシート，行動観察）	
	16 ～ 19	情報の収集 整理・分析 振り返り ・ひろしま・マイタイムラインについて家族会議を行う。 ・学校防災グッズを調べる。	○知②（ワークシート）		
	20 ～ 25			◎思②（発言内容，ワークシート）	
三	26 ・ 27	課題の設定 「ココロに希望を灯そう！まちに花を広げよう」 ・聞いたこと，調べたこと，見たことについてどのようにまとめていくのか学習課題を立てる。		○思①（ワークシート，発言分析）	

28 ～ 30	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・たんとう節で歌われている場所を訪ねる。 ・町歩きをしながら水が溢れた地域についても確認する。(タブレットで記録する。) 	◎知② (ワークシート)		
31		<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生から西日本豪雨災害の際の話を、詳しく聞く。 			○態① (課題カード, 発言内容)
32 ・ 33		<ul style="list-style-type: none"> ・被災した経験をまとめたり, 家族や友達にインタビューしたりする。 	◎知② (ワークシート)		
34 (本時) ～ 39	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・たんとう節で歌われた美しい場所と災害時の写真を比べながら整理し, 安全マップを作成する。 		◎思② (発言内容, ワークシート)	○態① (発言内容)
40 ・ 41		<ul style="list-style-type: none"> ・家族のインタビューをもとに, 被災した家族を元気にしていく方法を考える。 		◎思② (発言内容, ワークシート)	◎態① (発言内容)
42 ～ 47	まとめ・創造・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な事柄や伝えたい内容を整理して構成を考える。 		○思② (発言内容, ワークシート)	
48		<ul style="list-style-type: none"> ・「学習発表会」で, 学んだことについて発表する。 		◎思③ (発言内容, 行動観察)	
49 ・ 50		<ul style="list-style-type: none"> ・被災マリーゴールドをハンカチに染め, 広報活動に使用する。 			○態② (発言内容, 行動観察)
51 ・ 52	実行	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題に取り組む。 		◎思③ (パフォーマンス課題)	◎態③ (ワークシート, 発言内容)
53 ・ 54		<ul style="list-style-type: none"> ・「防災発表会」で, 学んだことに自分の被災体験を重ねて, 前向きな言葉発表する。 			
53 ・ 54	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り, それぞれが今感じている安浦のじまんや地域の防災について語り合い, 自分の命は自分で守ることについて確認する。 	◎知③ (発言内容, 作文カード)		◎態③ (ワークシート, 発言内容)
		<ul style="list-style-type: none"> ・マリーゴールドの種を次の3年生に引き継ぐ。 			

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「○」を, その中で特に学級全員の児童の学習状況について総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「◎」を付けている。

5 本時の学習（本時34／54）

（1）本時の目標

西日本豪雨災害で起きた被害の写真を比較し共通点を見付け、分類して地域の危険場所を理解し安全マップづくりに生かすことができる。 【思考・判断・表現】

（2）学習の流れ

	学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時の学習が、パフォーマンス課題とどう繋がっているかを知る。 2 写真を提示する。 3 めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題とのつながりを確認する。 写真を分類することとマップ作成の意味を確認する。 豪雨災害の記録から、浸水、土砂災害、河川の氾濫に分けられるような写真を提示する。 	
	さいがいが起こりやすい場所を見つけるために、写真を同じグループで仲間分けして地いきのきけん場所を見つけよう。		
考える	学び合い①自分の考えをもつ 4 個人で写真の共通点を見付ける。 比較する 分類する ○この写真を、危険の種類ごとに3つのグループに分けるとどのように分けたいだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 山がくずれて家があるところに流れ込んでしまっているね。 公園が水浸しになっているけど高い道路には水がないね。 5 個人で考えたことをもとに、グループで仲間分けさせる。	学び合い②比較・分類しながら思考する <ul style="list-style-type: none"> 複数の写真を比較して共通点を見付けさせる。 情報を選ぶ際、なぜその分類にしたのか理由を付けて話し合いをさせることで、目的にあった分類ができるようにする。 災害時の様子や周りの特徴に注意して分類させる。 	安浦町のよさや防災について収集した多様な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 【思・判・表】 (ワークシート、発言)

深める	<p>学び合い③考えを広げたり深めたりする</p> <p>6 全体で共有し、理由をまとめる。</p>	<p>・グループで話し合った結果を理由を付けて発表させる。</p>
	<p>7 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>やすうらでは、土砂さいがい、川のはんらん、水が家などに入る（しん水）が起こるきけん場所がある。</p> </div> <p>8 学習の振り返りを行う。</p>	<p>・本時の学習を振り返り、パフォーマンス課題と関連付けて、振り返りに書かせる。</p>
振り返る		

6 板書計画

ココロに希望を灯そう！

そしてまちに花を咲かせよう

㊦ さいがいが起こりやすい場所を見つけるために、写真を同じグループで仲間分けして地いきのきけん場所を見つけよう。

分類する

比較する

しん水

土しゃさいがい

はんらん

目てき

どのようなひがいがどのような場所であるのかを知る！

浸水の写真

土砂崩れの写真

河川の氾濫の写真

浸水の写真

土砂崩れの写真

河川の氾濫の写真

とくちよう

他の場所よりひくくなっている

山が近い谷になっている

川が近い

㊧ やすうらでは、土砂さいがい、川のはんらん、水が家などに入る（しん水）が起こるきけん場所がある。